

## 「ぐるっと茗荷谷・街たんけん(5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

子どもたちは春日通りをしばらく歩いた。春日通り(国道254号線)は、本郷三丁目交差点を起点とし、池袋、川越、小川町、寄居、藤岡、下仁田、佐久を通り、終点は何と長野県松本市。延長250km以上の壮大なスケールの国道である。その春日通りに⑫の地点で一旦別れを告げ、再び「茗荷谷」に下る。



下写真は坂を下りた⑬地点である。「坂道20%」の標識がある。タクシーはよく通るが、私のポロ軽自動車では、坂の途中で停止すると、再発進は難しい。風の影響もあるだろうが、坂の下のほうが暑く感じた。



⑭地点では再び丸ノ内線の下をくぐる。ここはまさに「茗荷谷」の底で、軌道敷よりも低いのだ。短いトンネルを出ると、すぐに右に曲がる路地に入る。ここから最後の坂、「釈迦坂」(しゃかざか)に入る。



このあたりは、茗荷谷の浸食谷の斜面(段丘崖)の傾斜が最も大きいところで、直登は難しいので、道はつづら折れになっている。名にしおう釈迦坂である。私は毎朝、自転車で釈迦坂を上っているが、通勤経路中、難所No.1である。(ちなみに難所No.2は茗荷谷の「庄や」寄らずに通るの難しい)

子どもたちと「釈迦坂登攀」をしていると、ちょうど丸ノ内線の電車が通った。軌道面は坂の法面と同じぐらいの高さだ。鉄道は勾配に弱いので、谷の地形とは無関係に、できるだけ水平に線路を敷いているのだ。



釈迦坂をヒーヒー言いながら登り終わったところで、今度は丸ノ内線の上を跨ぐ「跨線橋」を2度渡った。地図の⑮の地点である。子どもたちは、さっきくぐったばかりの線路が、今度は足下に見えたので、キヤーキヤー言って喜んでた。